

小論文

(200点 90分)

【注意事項】

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子及び解答冊子を開かないでください。
2. 問題冊子は1冊5ページ、解答冊子は1冊4ページです。
3. 試験開始後、問題冊子や解答冊子に乱丁・落丁がある場合は、直ちに申し出てください。
4. 受験番号と氏名の記入欄は、解答冊子の表紙と各ページにあります。
5. 試験終了後、解答冊子を回収するので、指示があるまで退席しないでください。
6. 問題冊子は持ち帰ってください。

問題 1

次の英文を読み、問 1 から問 3 に答えなさい。

Did you watch any of the Olympic events held in Paris this year? If you did, you are sure to have seen some spectacular performances from the athletes who were competing at the top level of their chosen sport. ①The emotions that the athletes feel are heightened because the Olympics are held on a global stage. The whole world is watching. Imagine winning a gold medal in front of millions of people. Naturally there is happiness and joy, but there is also pride and relief, excitement and fulfilment¹⁾. Now, imagine the emotions an athlete feels when they do not win a medal. They might feel disappointment²⁾, shame, sadness, maybe even anger, all mixed together.

Emotions are linked to motivation. In the case of Olympic athletes, their emotions motivate them to try to win gold medals. Maybe they train so hard because they want to feel 'winning emotions'. On the other hand, their motivation might come from trying to avoid 'losing emotions'.

②Of course, emotions also support communication, and influence our understanding of situations and the actions we take. Emotions are controlled by a network of interconnected³⁾ structures in the brain called the limbic system⁴⁾. The limbic system helps process⁵⁾ thoughts, memories and emotions. It tells your body how to respond to situations. For example, it tells us to eat when we feel hungry, or to run away when we feel scared. Our limbic system supports our lives in so many ways, but we never think about it.

¹⁾Fulfilment 充実感

²⁾Disappointment 失望

³⁾Interconnected 相互に結びついた

⁴⁾Limbic system 辺縁系

⁵⁾Process 処理する

問1 下線部①、下線部②をそれぞれ日本語にきなさい。 (15 点×2)

問2 The writer explains how emotions are linked to motivation. Write in one or two sentences how emotions helped your motivation to do something. You should write at least 20 words in total. (解答欄の範囲内に、1 文か 2 文、計 20 語以上の英文を作成すること) (15 点)

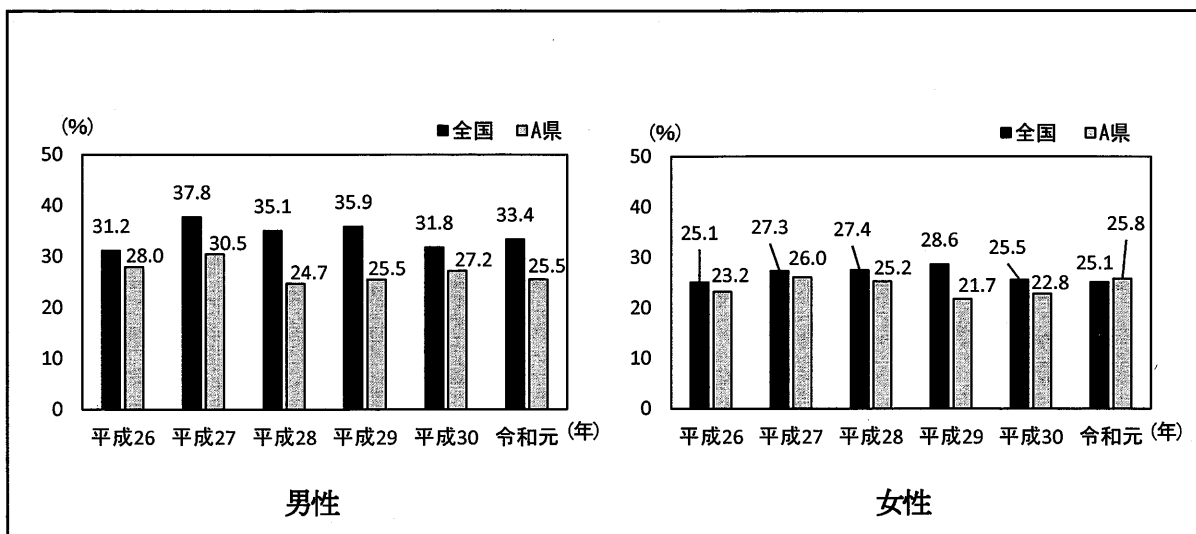
問3 本文中の「limbic system」の説明に基づき、辺縁系の役割を述べ、その重要性について、あなたの考えることを日本語 140 字以上 160 字以内で述べなさい。 (15 点)

問題 2

問 1

図 1 は運動習慣のある人の割合について全国と A 県を比較したデータです。下記の①から⑤の記述について、このデータから読み取れる内容として正しい場合は「正」、誤っている場合は「誤」に○印をつけなさい。(6 点×5)

図 1 運動習慣のある人の割合 (年次推移)

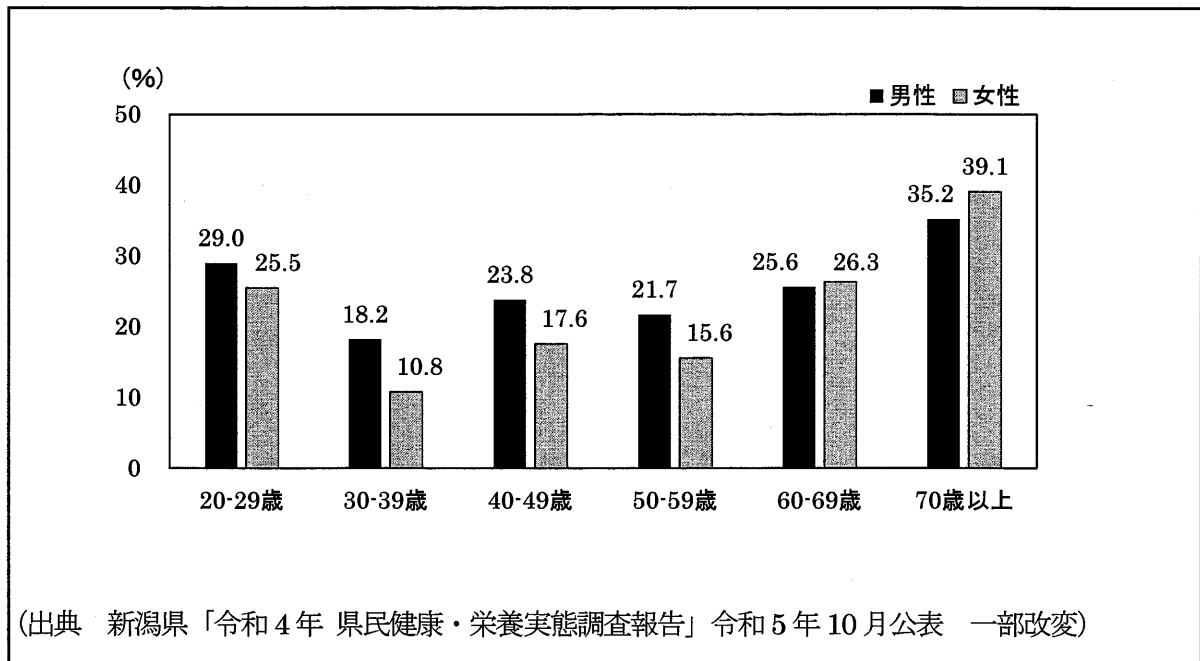


- ① A 県において運動習慣のある人の割合は、女性では令和元年に初めて、わずかではあるが全国を上回った。
- ② 男性と女性それぞれにおいて、全国の運動習慣のある人の割合が最も多い年は、A 県の運動習慣のある人の割合も最も多い。
- ③ 女性の A 県における運動習慣のある人の割合について最も多い年の割合は、最も少ない年の割合の約 0.8 倍である。
- ④ 男性の全国と A 県の運動習慣のある人の割合の差は、平成 26 年から平成 28 年にかけて、年々広がっている。
- ⑤ A 県における平成 29 年から令和元年の運動習慣のある人の割合の平均値は、小数第 2 位を四捨五入すると、男性が 26.1%で、女性が 23.4%である。

問 2

図 2 は新潟県において運動習慣のある人の割合を年齢階級別に示したデータです。これらのデータに基づき、新潟県の運動習慣に関する課題と、その課題を解決するための方策について、あなたの考えを 120 字以上 160 字以内で述べなさい。(40 点)

図 2 新潟県において運動習慣のある人の割合 (年齢階級別)



問題 3

次の文章を読んで、問 1 から問 4 に答えなさい。

社会の問題の本質を理解するためには全体を読み解く視点が必要ですし、問題の本質を正しく伝えて共有するためには表現を磨くことも必要になります。怒りや憤りや悲しみは、わたしたちの内部から自動的に生まれてくる感情表現ですが、個人の感情はそのままでは他者への表現にはなりえません。パーソナルな感情を他者へ伝えるためには、感情のエネルギーを別の形態に変換して伝える工夫が必要です。

絵を描く、音楽にする、文字を書く、体を動かす、料理をつくる、テキスタイルを織る、形を創る……。個人の資質や性格や好みに合わせて、適した表現形態が必ずあります。個人的な工夫が一つ間に入るだけで、「心と心」というパーソナルな世界の間に「表現」を介した橋が架かります。もちろん、どんな人との間に橋を架けたいかという目的地の設定も大切です。心と心がつながりあい、共感し合う通路として、自分自身を発見し、お互いを発見しあう表現の中に「芸術」という様式があります。そうした表現行為は A 社会の致命的な裂け目をつなぎ、自己治療を超えた社会治療、医療行為に近いものへと変容します。

わたしたちは生きている限り、憤り、怒り、哀しみを感じることもあれば、喜び、楽しみ、感動することもあります。どんな状況でも、受け取ったものを自分なりの表現へと変換させ、時には自己の治療を超えて少しでも社会の治療に^① コウケンできれば、自家発電のように心を養うことができるようになります。芸術と医療、表現と治療、自分と他者、個と場。そうしたものが肯定的に^② ジュンカ
ンしている状態を、「未来の生活の場」としてイメージしています。

(中略)

医療現場で働いていて、多くの方が苦しんでいると思うのは自分自身の「あたま」と「からだ」「こころ」との関係性です。

この絡まった糸がほぐれていけば、誰もが生きやすい状態になると思います。「あたま」中心の考えで生きるのではなく、「からだ」が心地よい方向へ、そして「こころ」が求める方向へと生き方が変わると、かなり生きやすくなるからです。

「あたま」からの声は、主に『こうすべきだ』『こうしなければならない』という義務形や命令形で伝えられます。一方、「こころ」からやってくる声は『こうしたい』『これが好きだ』『心地よい』という形で伝えられるものです。

命令形や義務形で伝えられる声は「あたま」由来と考えてください。そして、「あたま」は外部の情報に汚染されている場合も多く、ほどよい距離感を持つように注意してください。「あたま」から意識的に離れるくらいの関係性がちょうどいいのです。「あたま」は体

全体にとつての曲者^{くせもの}であり、異物であると考えらるくらいの距離感が適切です。B 「あたま」と「こころ」の声を明確に区別しながら、

「こころ」からの声に合わせるほうが生きやすくなります。

人間の「あたま」は情報を統合する場所として極めて重要な部分ですが、「からだ」や「こころ」の行動原理と比べるとかなり③ イシヨクであると考えてください。なぜなら「あたま」は外部情報を取り入れる作業が多いため、「からだ」「こころ」という内部情報からの声を無視する傾向にあるからです。

「あたま」は、内と外との情報戦の軋轢^{けんりく}の中で苦しみながら④ カジユウ労働を強いられている存在とも言えますが、「いのち」が向かう先として重視する必要があるのは内部の生命情報です。

この土台の場所が崩れると本末転倒です。わたしたちの内部にある「(a)」の営みは、神経細胞の電氣的パルスのやりとりから内臓や血管の働きまで、ほぼ無意識の領域でやりとりされています。もしすべてを意識下で制御しようとすると、膨大な情報量を抱えた「(b)」は正気を保つことができないほどのパニックに見舞われるでしょう。見方を変えたと、「(c)」側の営みは「(d)」の許容能力を考えた親切心のようなものです。

(出典 稲葉俊郎著『いのちの居場所』扶桑社、二〇二二年、九十六〜九十八頁 一部改変)

問1 傍線部①から④のカタカナを漢字で書きなさい。(各四点)

問2 傍線部A「社会の致命的な裂け目」とはどのような状況のことか。五十字以上、六十字以内で説明しなさい。(十八点)

問3 傍線部B「「あたま」と「こころ」の声を明確に区別しながら、「こころ」からの声に合わせるほうが生きやすくなります」について、本文の趣旨を踏まえ、あなたが考えることを百字以上、百二十字以内で説明しなさい。「あたま」、「こころ」は、漢字で記入してもよい。(二十点)

問4 傍線部(a)(b)(c)(d)には、「あたま」、「からだ」いずれかの語が入る。それぞれに入る適切な語を書きなさい。「あたま」、「からだ」は、漢字で記入してもよい。(各四点)